

第195号 発行日 平成25年4月3日

合格通信

今
月
の
名
言

終わりというものはない。始まりとい
うものもない。

人生には無限の情熱があるだけだ。
始まりと思うのも自分、もう終わりと思
うのも自分。

— フェデリコ・フェリーニ —
(イタリア映画監督)

これは、塾生のみなさんと、特進スクールを訪れてくれた、小中高校生の皆さんとお問い合わせ
いただいたお父さん、お母さんに向けて、勉強法や受験に役立つ話題をお届けする情報誌です。

子どものタイプ別対処法⑫

保護者面談をしているとよく「何でうちの子はやる気を出してくれないのだろう」そう言
ってくる親はとても多いのです。けれども子どもはひとりひとり性格が違いますし、これま
で育ってきた環境も違います。やる気が出せない理由は様々です。なかなか勉強に入ってい
かない子どもたちには、どのような悩みがあり、どんな問題があるのでしょうか。



「わからない問題に直面した時の解決策」

人に聞くのは最後の手段。まずは自分で手を尽くしてから。

辞書、参考書、教科書、ノート、などをひも解いてどうしても理解できないところは、学校の
先生や塾の先生、家庭教師に聞くこととなります。それも漠然とまるごと質問するのではなく、
わからないところを最小単位まで分解して一か所だけを見つけることです。先生に質問する
にしても「ここまではわかったのですが、ここからがわかりません」と聞いてくると、教える側
も、「よくここまでわかったな、あとは先生が説明するよ」とうれしくなります。自分でとこと
ん考えて、どうしようもなくなったら質問する。こうした質問の仕方は非常に効果的ですし、そ
うした人の成績はどんどん上がっていくのです。

理解を促す大切なことがある。頭を助ける最強の方法。

それは「書くこと」です。特に数学の文章題や関数、図形の問題は、ただ問題を読んで考えて
いるだけでは、解法や答えは出てきません。方程式の文章題で「家から2km離れた駅に向かうの
に、8:00に出発し、初めは分速50mで歩き、途中から分速80mで走ったら8:30に着き、歩く
のに比べ5分早く着いた。走った距離は何mか。」このような問題であれば、家から駅までを直
線で結び、歩いたところを途中まで区切り、残りを走った距離として図を書いていくとどうい
う方程式を作っていけばよいか、わかってきます。また関数の問題で「2つの直線が作る三角形の
面積を求めなさい」という問題であれば、まずグラフの式を求めて底辺と高さを探していけば、
自ずと解法が見えてきます。図形の直線の長さや、角度を求める問題でも、補助線を自分なりに
いろいろと書き込んでいくと、答えが出てきたりします。このように問題に**どんどんヒントとな
る情報を書き込んでいくのです。**いろいろな人の問題用紙を見ると、とくに**成績優秀者の問題
用紙はそうした書き込みでいっぱいなのです。**

～次回に続く